

七 舞へくかたつむり

舞へくかたつむり

梁塵秘抄

舞へくかたつむり、舞はぬものならば、うまの子やうしの子にくゑさせてむ、踏みわらせてむ、まことに美しく舞うたらば、花の園まで遊ばせむ。

まつの木かげに立ちよりて、岩もる水をむすぶまに、扇の風も忘られて、夏なき年とぞ思ひぬる。池の涼しきみぎには、夏のかげこそなかりけれ、こたかきまつを吹く風の、声も秋とぞ聞えぬる。

七 舞へくかたつむり

三十九

遊びをせむとや生まれけむ、たはぶれせむとや生まれけむ、遊ぶ子どもの声聞けば、わが身さへこそゆるがるれ。

日光

北原白秋

一

もろ手をろへて日の光すくふ心ぞあはれなる。

すくへどすくへど日の光、

光りこぼるる、音もなく。

二

光めかゞやく何ものかにぎりしめんとす、日もすがら。

光りかゞやく空中に手をにぎりしめ、また開き。

三

何かおどろき、見まはせど、

かゞやくものは日の光。

ふつともらししたため息をわがものぞとは人知らず。

四

光あふるるつたかづら、

ゆりうごかすは日の光。

たゞ日の光、日のしづく。

(白秋全集)

ひがらとつばき

北原白秋

つばきにひがらが飛んで来た。

あれ、あれ、空見てないている。

つばきの花がさみなあかい、

重なり重なり咲いている。

ひがらの頭は動いてる。

なく時、なく時、動いてる。

つばきの花がさゆれだした。

花から花へとゆれだした。

花から花へとゆれだせば、
どの葉もどの葉もゆれだした。

枝から枝へと飛びくぐりに、
ひがらはなきくぐり遊んでる。

ひがらはどんなにうれしかろ、
つばきもどんなにうれしかろ。

(白秋全集)

学習の手引

- (1) 一つくぐりの歌は、何を歌おうとしたものか、それについて考える。
- (2) 昔の人の明かるいそほくな心持は、どのことばによってうかゞうことができるか。
- (3) 梁塵秘抄の詩と、このあとの二つの詩とを比較してみる。
- (4) 童謡や民謡を採集して研究する。